

平成 23 年 5 月 1 日現在

機関番号： 32414
研究種目： 基盤研究 (C)
研究期間： 2008～2010
課題番号： 20520488
研究課題名 (和文) バイリンガルの言語切り替えと第二言語産出のメカニズムに関する研究
研究課題名 (英文) A study on the mechanism of bilingual code-switching and second language production

研究代表者
岡 秀夫 (OKA HIDEO)
目白大学・外国語学部・教授
研究者番号： 90091389

研究成果の概要 (和文)：

幼児から学童のバイリンガル発達と言語の切り替えに関して、認知の発達および CALP の観点から興味深い収穫が得られた。また、第二言語の産出に関しては、複言語主義の理念にもとづき、「異文化間伝達能力」としてモデル化した。

研究成果の概要 (英文)：

As for the bilingual development and code-switching, interesting findings were obtained concerning the cognitive development and CALP. With regard to the second language production, a model of “intercultural communicative competence” was proposed on the basis of plurilingualism.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野： 人文学

科研費の分科・細目： 言語学・外国語教育

キーワード： 第二言語習得理論、バイリンガリズム

1. 研究開始当初の背景

バイリンガリズム研究はまだ発展途上期にあり、言語切り替えについてもまだそのメカニズムが十分解明されていなかった。また、第二言語の産出も、英語教育で「スピーキング能力」としてとらえるだけで、異文化間コミュニケーションという視点が欠落していた。

2. 研究の目的

まず、バイリンガルの言語切り替えのメカニズムを解明し、外国語教育に資することであった。また、第二言語の産出の仕組みを明らかにし、今日のグローバル化した世界で円滑な異文化間コミュニケーションを図ることをめざした。

3. 研究の方法

バイリンガルの言語発達と切り替えについては、実地調査によりデータを収集したり、提供された資料をもとに記述し、分類、分析した。第二言語の産出に関しては、バイリンガル教育を観察し、産出能力の発達に焦点をあてて調査した。それと同時に、外国語教育の理念と枠組みを考える上でCEFRに注目し、文献研究と海外出張による調査を行った。

4. 研究成果

3年にわたる本科研の研究の結果として得られた成果は、次の3点にまとめることができる。

(1) バイリンガルの二言語発達に関して、幼児の認知的な成長と相関して興味深い発見が多々あり、また、学童の書きことばの資料の分析から、CALP(学習言語能力)の発達という点で有益な収穫があった。

(2) バイリンガルの言語切り替えに関して、コード・スイッチングの語用論的動機を分類し、そのメカニズムの解明に迫った。とくに、社会的要因と心理的要因の絡み合いと「文化文法の切り替え」が新機軸であった。

(3) バイリンガル教育の実態を観察し、子供たちの中に第二言語がどのように発達し、産出能力に結びついていくのかを調査した。日本の英語教育のあり方を考える上で、CEFR(ヨーロッパ共通参照枠)の提唱する

plurilingualism(複言語主義)の理念、それを達成するアプローチとしてCLIL (Content and Language Integrated Learning) に注目した。産出能力に関しては、次のようなインタラクティブな「異文化間伝達能力」としてモデル化した。

$$1 < S (P+K) < 1$$

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

1. 岡秀夫「スペインの言語事情と英語教育」
『研究論集』No. 12、東京大学外国語教育学会、2008年5月、pp.1-18.
2. 岡秀夫「CEFRを通して『外国語能力』を考える」
『言語・情報・テキスト』Vol. 15、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻、2008年7月、pp.71-84.
3. 岡秀夫“English Language Education in Japan: Recent Developments” (英文)
『言語・情報・テキスト』Vol. 16、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻、2009年10月、pp.53-60.
4. 岡秀夫「外国語能力のとらえ方-communicative competenceで十分か-」
『目白大学人文学研究』第6号、2010年3月、pp.151-161.
5. 岡秀夫他「新しい英語リメディアル教育へのアプローチ」
『目白大学高等教育研究』第17号、2011年3月、pp.79-88.

[学会発表] (計15件)

1. 岡秀夫他「CEFRjapan-『グローバルな英語コミュニケーション能力』の基準を求めて」
第47回大学英語教育学会(JACET)全国大会シンポジウム、司会・発表、2008年9月13日
2. 吉島茂、岡秀夫他“International Symposium on Foreign Language Education: Its roles in formal

education, with special reference to primary school”

吉島科研 国際シンポジウム、総合司会 (英)、聖徳大学、2008年10月12-13日

3. 岡秀夫「日本の英語教育を発信する-英語教育のめざすもの：バイリンガリズム」
目白大学公開シンポジウム、2008年10月18日
4. 岡秀夫「バイリンガル研究から見た早期英語教育」
名古屋外国語大学 第20回英語教育講演会、2008年11月4日
5. 岡秀夫「英語教育と私」
最終講義、東京大学大学院総合文化研究科、2009年3月12日
6. 岡秀夫「バイリンガリズムから見た英語教育のめざすもの」
基調講演、広島大学英语教育学会、県立広島大学、2009年8月22日
7. 岡秀夫「小学校英語教育への取り組み」
東京家政大学 第8回英語教育シンポジウム 2009年10月25日
8. 岡秀夫「英語教育の研究と実践-英語教育研究：その歴史と全体像」
目白大学公開シンポジウム、2009年10月31日
9. 岡秀夫「バイリンガル研究から見た早期英語教育-これからの小学校外国語活動の在り方を考えるために」
講演、日本児童英語教育学会 (JASTEC) 関西支部秋季研究大会、近畿大学、2009年11月8日
10. 岡秀夫「バイリンガリズム研究と英語教育」
英語教育特別研究リレー講義、関西外国語大学、2009年11月9日
11. 岡秀夫他「高等学校新学習指導要領『英語の授業は英語で』を考える」
シンポジウム、語学教育研究所 2009年度研究大会、武蔵野大学、2009年11月22日
12. 岡秀夫「外国語教育における目標言語と母語の役割-『英語の授業は英語で』を考える」

第2回目白大学外国語教育研究会、2010年6月2日

13. 岡秀夫、鷺津名都江他「英語リメディアル教育-目白大学の取り組み」
第4回 JACET 関東支部大会シンポジウム、2010年6月27日、東洋学園大学
14. 川成美香、岡秀夫他「CEFR の日本版 (Japan Standards) 開発に向けて」
川成科研中間発表会、2010年12月12日、共立女子大学
15. 岡秀夫「子どもの可能性-バイリンガルから学ぶ」
講演、神田外語大学シンポジウム『効果的な小学校英語教育』、2011年2月11日、神田外語学院

〔図書〕 (計3件)

1. 東京大学外国語教育学研究会 (FLTA) (編)『外国語教育学研究のフロンティア-四技能から異文化理解まで』
岡秀夫「ウィーンを中心とした英語教育改革-CEFRの応用と展開」(pp. 193-205)
成美堂、2009年1月
2. 岡秀夫・金森強 (編著)『小学校英語教育の進め方-「ことばの教育」として』
改訂版
成美堂、2009年4月、314pp.
3. 岡秀夫編著、飯野厚他著『グローバル時代の英語教育-新しい英語科教育法-』
成美堂、2011年1月、174 pp.

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡 秀夫 (OKA HIDEO)
目白大学・外国語学部・教授
研究者番号：90091389

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：